



PICK UP
2

**市内の観光地を視察し
アイデアを出し合う**
日本経済の流れ、実例による観光集客のポイントなどを学び、須木、生駒方面を視察。視察先で、時期ごとの来客数、催しなどの説明を受けました。その内容を反映させたアイデア創出法や「観光地」と「産品を

**新たな地域の魅力を
観光客の目線で考える**
7月2日、3日の2日間、中央公民館で「地域活性化のアイデア出し合ういなかソン」を開催しました。新たな地域の魅力、問題点の発見や「観光客の目線、立場から考え、地域経済の活性化を図る」ことを目的に実施し、市内外から約40人が参加しました。

観光での地域活性化を目指し さまざまな視点からアイデアを出し合う

Voice of the participants 参加者の声



細野在住
川子 カズエさん
みんなのアイデアで
小林はもっとよくなる

小林市のために何かできないかといなかソンに参加しました。視察で伺った生駒高原では、コスモスやポピーの咲く時期に来場される観光客の人数が15万人だと聞き、とても驚きました。視察時は花がない時期で、生駒高原の活用方法を模索したいと、視察後に提案したところ、他の参加者からたくさんのアイデアをいただきました。市内外から参加された方と一緒に小林市の活性化について意見を出し合うことができ、これからの小林市はきっと、もっとよくなると実感しました。

売る」に分けたカスタマージャーニーマップ（顧客の行動が時系列に記したものの作成に取り組みました。参加者は、「小林にはチーズを作る人がいる」、「ままこ滝には悲話があった」、「催しがないときの観光地の利用方法がもったいない」など、足を運んだこと

があっても気づかなかった魅力と問題点を付箋に書き出し、さらなる魅力のPR方法や、効果的な観光地の利用方法についてお互いの率直な意見を交換しました。今回出された意見やアイデアは集約、分析され、観光ビジョンに反映します。



PICK UP
1

市総合計画の策定に向けダイアログを開催 まちの将来像や目標を市民主体で考える

**まちづくりの方向性を
市民主体で考える**

6月26日と7月24日の2日間で、小林の未来を考える「こばやし未来計画ダイアログ KOBASHI☆MIRA」を中央公民館で開催しました。まちづくりの方向性を市民主体で話し合い考えることが目的。10代から80代まで、約150人が参加しました。参加者は、来年度からの次期総合計画の基本となる「小林をこんなまちにしたい」という将来像や目標について話し合いました。総合計画は市の最上位計画で、まちづくりの最も基本となる計画です。

**5つの分野に分かれ
10年後の将来像を語る**

はじめに、人口の推移や

Voice of the participants 参加者の声



堤在住
川畑 樹也さん
意見を出し合い
小林の問題を共有できた

今回のダイアログでは、さまざまな職業の人と話すことができ勉強になりました。医療や介護、子育て、教育などさまざまな分野で働く人との交流を通じて分かった小林の現状や課題は、知らないことも多かったです。そして私自身、3歳と1歳の2人の子どもがいて、小児科の充実などの意見を出すと、同じように問題意識を感じているという意見が多く出ました。悩みを共有し、どういうまちにしたいという意見を出し合う場は今までになかったので、このダイアログはとてもいい取り組みだと感じました。

少子高齢化など現状や課題について説明があり、「10年後の小林のありたい姿」というテーマのもと、ダイアログを実施。「子育てのしやすいまち」、「雇用の創出」や「高齢者がいつまでも元気に暮らせるまち」などの意見が出ました。その後、参加者は「にぎ

わい（農業や観光など）、「いきいき（子育て、高齢者支援など）」、「まなび（教育、文化など）」、「あんしん（防災など）」、「せいかつ（環境、税、国保など）」の5つのグループに分かれ、それぞれの分野での10年後の将来像について意見を出し合いました。